

平成27年2月20日

岩国文化

編集 岩国市文化協会
発行 岩国市文化協会
<http://www.iwakuni-bunka.com/>
〒740-8585
岩国市今津町1-14-51
岩国市市民生活部
文化振興課内
印刷 (有) 国際総合



箏と合唱のコラボレーション

【主な内容】

- 文化協会活動紹介
- 市民文化祭特集
- 文化功労賞等表彰
- 文化功績賞受賞者紹介
- 行事報告



平成26年度文化協会活動紹介

六十周年記念事業

当協会は創立六十周年を迎え、平成二十六年にはさまざまな記念事業を実施しました。

春には記念イベントとして二日間にわたり、シンフォニア岩国で記念式典、講演会、舞台発表、合同作品展、お茶席、音楽コンサートなど多彩な催しを開催。連日多くの方に足を運んでいただきました。十年に一度表彰される文化功績賞には八十四名の方が名を連ね、最終日の夜に催された祝賀会も盛大なものになりました。

夏には海外での国際文化交流事業を、ハワイのホノルル、アラモアナセンターにて開催。三味線で奏でる日本やアメリカの民謡、浴衣姿での琴の演奏、地元の「いわくに踊り愛好会」の皆さんと踊った岩国音頭を通じて、現地の方々と交流を深めました。

また、岩国市、岩国市教育委員会、(公財)岩国の文化を育てる会との共催で毎年開催されている岩国市民文化祭も、今年度は記念事業の一環として、例年以上に質の高い行事が繰り広げられました。

日頃の研鑽の成果が発揮されることもに会員どうしの連携も深まり、文化芸術活動を通じたまちづくりの大切さを改めて認識しました。

さらに、当協会で十年毎に発行している記念誌については、今年度開催された記念事業や加盟団体の歴史・現状・抱負、この十年間の歩みや岩国の文化の変遷を掲載した「六十年史」を作成しました。今回はより見やすくするためにB5判からA4判に拡大し、全ページをカラー印刷に変更。十一回の編集会議や校正作業を経て今冬、発行の運びとなりました。

今、この歴史を振り返り、六十年の間協会を支えてこられた諸先輩方のご努力に想いを馳せるとともに、今後も全会員の協力のもと、歴史を引き継ぎ文化芸術の創造に努め、地域社会の発展に貢献してまいりたいと思います。

六十周年記念事業内容

創立六十周年記念イベント

五月二十四日

小島なお短歌講演会
吉次薫俳句講演会

華奏麗舞(洋舞、邦楽、邦舞、新舞踊、民謡)

ピアノとコーラスコンサート
五月二十五日

記念式典(文化功績賞表彰)
村上弦一郎記念コンサート

藤原正彦文化講演会
大正琴コンサート

祝賀会(岩国国際観光ホテル)
五月二十四日・二十五日

合同作品展(美術、書道、文学、俳句、川柳、短歌、華道、クラフト、写真ほか)
お茶席

八月二十五日〜三十日
国際文化交流

二月一日

記念誌「六十年史」発行

岩国市民文化祭総合開会式



7月13日 音楽フェスティバル

箏と合唱のコラボレーション

「文化の創造く未来へ」をテーマに掲げた、岩国市文化協会創立六十周年の記念イベントにおいて、邦楽団体は、「箏と合唱のコラボレーション」という新しい試みを披露しました。

合唱団は、五歳から八十歳までの音楽愛好家三十人で結成。

箏の演奏に合わせて童謡「茶つみ・海・里の秋・村祭り」など日本人の生活や季節と密接な関わりのある曲をメドレーにしました。さらに、ソロ・デュエット・合唱と変化に富んだ構成で表現し、会場を沸かせました。

二月から八回の練習を重ねて本番に臨みましたが、練習の合間には、三世代にわたるメンバーが、指揮者の先生の指導通りに教え合うなど、心がほっこりと豊かになる場面が多くみられました。

本番では、童謡の素朴なメロディーと箏の音色が不思議なハーモニーとなつて響き、聴く人の心を魅了しました。

今後も、邦楽の更なる発展とともに、新しい文化との融合をも見据えながら、豊かな文化を紡いでいくことを祈念しています。

第58回 岩国市民文化祭



7月20日 洋舞フェスティバル



7月27日 コーラスフェスティバル



7月31日～8月3日 近郊カメラマンたちの写祭



8月24日 邦舞 錦扇会



10月4～6日 諸流いけばな・盤景展、合同茶会



10月12日 ふれあい歌の祭典



10月24～26日 俳画展



10月25日 川柳大会



10月26日 俳句大会



10月26日 みんなの秋の祭典



11月1～3日 秋の盆栽展



11月9日 邦楽大演奏会



11月14～16日 合同クラフト展



11月16日 バレエ公演



11月23日 演劇公演



11月24日 短歌大会



11月30日 吟剣詩舞道連盟大会



3月26～29日 水墨画展
(写真は昨年の様子)

栄えある受賞 おめでとうございます

岩国市文化協会では、協会の発展や岩国市の文化振興に功績のあった方々を表彰しています。
平成26年11月3日(祝)に岩国国際観光ホテルにおいて表彰式と祝賀会が開催されました。



田中 伸英	西村歌美穂	写団「のら犬」	田村 順玄	石川 善久	山下 好雄	宮原 賀風	竹内 佳代	平田 博英
蜀紅短歌会	味村 静代	村本 敏子	江村 宗恒	香川 靖嗣 (令夫人)	宮本歌千穂	元島 祥次	水野 万里	草笛短歌会

●岩国市文化協会表彰●

久能賞

久能賞は、初代会長である久能寅夫先生の顕彰会からの寄付金を基金として、文化振興に功績のあった他の模範となる個人や団体を表彰するものです。

香川 靖嗣(シテ方喜多流)
宮本 歌千穂(筑紫琴風会)

文化功労賞

文化功労賞は、文化振興や文化協会及び加盟団体の発展に永年貢献し、功績があった個人や団体を表彰するものです。

個人

味村 静代(三才流盤景岳岩国錦見会)
石川 善久(岩国マンドリンオーケストラ)

岩澤 琴 氺(琴伝流大正琴全国普及会フエニックス)

江村 宗 恒(社)表千家同門会山口県支部岩国地区)

田村 順 玄(岩国演劇研究会「劇団のんた」)

水野 万里(武者小路千家岩国官休会)

宮原 賀 風(光風流山陽吟詠会岩国地区連合会)

村本 敏子(WPF押花 花遊会)

山下 好 雄(岩国市盆栽会)

団体

草笛短歌会(短歌)
写団「のら犬」(映像)
蜀紅短歌会(短歌)

文化奨励賞

文化奨励賞は、芸術文化の分野で高い評価を受け、今後の活躍が期待される個人や団体を表彰するものです。

竹内 佳代(コール錦)
田中 伸英(華道家元池坊岩国支部)
西村 歌美穂(筑紫若樹会)
平田 博英(岩国絵画クラブ)

●岩国市表彰●

文化功労賞

讃井 直(団体運営)
佐山 和郎(顕彰活動)
元島 祥次(団体運営)

文化芸術栄光賞

岡本 澤(短歌)

〔団体名は受賞時点による〕

(敬称略)

岩国市文化協会創立六十周年記念 文化功績賞 受賞者

- | | | |
|-------------------------------|---------------------------|------------------------------|
| 藤井 みよ子 (岩国新美術協会) | 山本 啓子 (琴伝流大正琴全国普及会フェニックス) | 西向寺 静邦 (典静流吟剣詩舞道) |
| 西村 花子 (岩国絵画クラブ) | 与田 達男 (岩国混声合唱団) | 杉山 馨伸 (馨風流吟剣詩舞道山口県支部) |
| 村重 辰生 (竹山会 (水墨画G)) | 清戸 俊江 (コール錦) | 晃月 恵寿 (日本舞踊 晃月流) |
| 岩井 穂尚 (岩国錦穂俳画会) | 沖中 伊都子 (岩国女声合唱団) | 森川 彰 (藤本流秀規誉会) |
| 土肥 健次 (アトリエフレンド) | 沖村 啓子 (愛宕フラウエンコール) | 城 扶実卓 (山口民謡陸実会) |
| 三分一 重厚 (スタジオ美の小径) | 館 澄子 (コール・マードレ) | 重岡 宗紀 (社団法人表千家同門会 山口県支部岩国地区) |
| 上林 千枝子 (岩国書道協会) | 沖野 雅紫貴 (生田流正派紫陽会) | 前野 宗枝 (社団法人茶道裏千家 淡交会岩国支部) |
| 石原 葉玉 (岩国文化書道院) | 藤本 歌津代 (筑紫若樹会) | 藤本 治道 (武者小路千家岩国官休会) |
| 村田 暉峰 (凌雲書道会) | 山方 揚山 (新都山流尺八山口県支部弘友会) | 川井 波光 (専心小笠原流煎茶岩国支部) |
| 川口 眞里子 (かな書道むつみ会) | 宮本 歌穂湖 (筑紫琴風会) | 武廣 蓉子 (華道家元池坊岩国支部) |
| 岡井 鳳蓉 (書友会) | 松重 城山 (生田流岩国筑紫華弥音会) | 玉井 典子 (華道家元岩国小原流会) |
| 西村 宏 (地方文化の会・岩国) | 正重 雅楽美世 (生田流正派桐朋会) | 津原 喜久子 (草月流岩国) |
| 内田 博子 (岩国エッセイライターズ) | 嘉屋重 賢山 (あしたば) | 小方 栄旺川 (三才流盤景岩国錦晃会) |
| 大朝 久子 (岩国同人俳句会) | 田中 歌寿乃 (生田流筑紫と音会) | 廣本 芳春 (専心池坊岩国支部) |
| 藤田 和昭 (岩国若葉会) | 小松 謡山 (新都山流洋山会) | 樹田 昭夫 (岩国蘭友会) |
| 佐々木 かつの (岩国春嶺会) | 正鬼 宏 (喜多流岩国喜香会) | 田中 巖 (岩国市盆栽会) |
| 正木 美智子 (岩国ひこばえ俳句会) | 黒元 克己 (岩国喜謡会) | 広森 紘一 (岩国山野草を楽しむ会) |
| 金田 寛治 (錦城俳句会) | 仲井 美智子 (山村流若葉会) | 井原 松男 (歌謡教室 山鳩) |
| 藤中公人 (岩国川柳会) | 藤間 三津幸 (藤間流 藤満会) | 上田 隆幸 (歌謡教室 白蛇) |
| 村本 宗和 (尾津かたつむり句会) | 森脇 啓子 (藤間流 藤紫会) | 野坂 吟子 (岩国歌謡道場) |
| 坂田 玲子 (対岸俳句会) | 森脇 静子 (藤間流 藤津会) | 末永 富士恵 (千草流和紙ちぎり絵 野菊の会) |
| 三吉 静子 (青潮短歌会) | 大井 藤枝 (山村流千舞会) | 縄田 千乃 (欧風刺繍 麦の会) |
| 山田 千代子 (蜀紅短歌会) | 江良 碧風 (光風流山陽吟詠会岩国地区連合会) | 片桐 文代 (WPF押花 花遊会) |
| 浦 弘子 (草笛短歌会) | 戸上 征城 (不二心流吟道会) | 川口 祥子 (スタジオル・カイン) |
| 新井 勝三 (岩国演劇研究会「劇団のんた」) | 田中 悠月 (日本吟道岩国吟詠会) | 三上 哲弘 (写団「のら犬」) |
| 岩本 雅子 (ミュージカル・ファクトリー・クライマックス) | 内野 玲風 (嘉風流吟剣詩舞道) | 村河 多丸 (岩国藩鉄砲隊保存会) |
| 小野 智美 (岩国ジャズバレエ研究会) | 中塚 光晴 (光峰流吟道周防地区連合会) | 安達 尚子 (宇野千代顕彰会) |
| 山本 衛 (岩国ソシアルダンス研究会) | 久村 岳洋 (光洋流吟道) | |
| 新井 義悠 (岩国マンドリンオーケストラ) | | |

きらりこの人

土肥 健次さん

(アトリエフレンド所属)

世界に誇れる文化遺産と四季折々の美しい景観をもつ「尾道」をモチーフに描く、全国絵画公募展の「第十六回絵のまち尾道四季展」において、グランプリを受賞されました。長年経営されていた自転車店の経験も生かし、自転車越しに見下ろす尾道の風景を描いた作品「小休止」は、二月下旬から三月初旬にかけて尾道市立美術館に展示されます。

中村りずさん

(岩国バレエ同好会所属)

二〇一四年第八回京都バレエコンクール パシオン・デュ・バレ・ア・キョウトの中学生部門において、第一位を受賞。スカラシップとして、ベルリン国際バレエコンクールの参加権を得ましたが、二〇一五年二月現在で十三歳に達していないため出場できず、代わりに今年三月にイタリア国際バレエ&コンテンポラリーコンクールやルーマニア国立歌劇場での公演に出場出演されます。

【団体名は受賞時点による】

(敬称略)

作品と受賞者の紹介

◎やまぐち二〇一四・短歌大会

(十一月二十四日)

山口県知事賞

正木 洋子

「シユレッターに介護日誌の飲み
込まれ細断される五年の記録」

◎岩国市俳句大会

(十月二十六日開催)

市長賞

村本 宗和

「行雁の一聲もなき別れかな」

◎岩国市川柳大会

(十月二十五日開催)

市長賞

石橋 敦子

「満願を果し余命が澄んでくる」

新・岩国百景



錦帯橋・横山
写真・狩山睦江(写団「のら犬」)

文化協会行事報告 (平成26年度)

平成26年	4月12日	第一回理事会
	4月28日	第二回理事会
	5月10日	第一回会員委員会
	5月24日	代議員会
	7月13日	創立六十周年記念イベント
	7月31日	市民文化祭総合開会式
	8月7日	第三回理事会
	11月3日	第一回事業委員会
	11月25日	第二回会員委員会
	12月23日	久能賞選考委員会
	12月24日	岩国市文化協会文化功労賞等表彰式典・祝賀会
平成27年	1月27日	第一回編集委員会
	2月11日	第二回編集委員会
		第三回編集委員会
		第一回企画委員会

『岩国市文化協会ホームページ』

会員の皆様の催し物、活動状況、新規会員の募集等さまざまな情報を発信しております。たくさんのお情報をお待ちしています！

「岩国市文化協会」[検索](#)

文化協会役員紹介 (平成26年度)

顧問 福田 良彦
名誉会長 佐々生 君子
参与 岩見屋 健
会長 藤谷 光信
副会長 安東 栄一
理事 廣重 光風
宮本 歌千穂
元島 祥次
北川 年明
石川 善久
井原 多佳子
上田 良成
江村 恒子
小國 正巳
音羽 晃
賀屋 恍山
北川 年明
晃月 恵寿
近藤 順子
篠原 芳弘
田村 順玄
中村 貴美子
浜村 瑞穂
半田 幸男
藤永 具規
藤間 勘三津
藤本 秀規
松根 健治
宮原 賀風
柳澤 静子
山下 好雄
弘中 利夫
堀 豊輝

常務理事

理事

監査

盆裁

華道

吟剣詩舞

高橋

民謡

邦舞

合唱

美術

俳句

能楽

演劇

映像

クラフト

新舞踊

洋舞

邦楽

短歌

書道

茶道

文学

歌謡

音楽

(平成二十六年十二月一日現在)

五十音順

編集後記

平成二十五年度から、多くの協議を重ね、準備を進めてきた「六十周年記念事業」も、「六十年史」の発刊をもってすべて成功裡に終わりました。心地良い余韻が残っていますが、会員の皆様はいかがですか。今回の会報は、「六十周年記念事業」を中心に構成してみました。それぞれの団体及び執筆者の方々のご協力に深く感謝しております。

岩国市においても、長年の懸案であった文化振興課が市長部局に設置されました。「文化芸術創造都市」を目指し、新たな取組みと連携が求められます。当協会としての役割もますます重要となってきました。

これまで以上に、自らが担う役割を認識し、多くの市民を巻き込んだ活動を行っていく必要があります。岩国市の文化水準を高めるため、個々の研鑽を惜しまず、後継者の育成に努め、団体間の交流・協働・共創に一層心を配りたいものです。

今後とも当協会及び会報「岩国文化」へのご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(編集委員…元島・弘兼・吉村・

武重・川野・升村)